

2019年2月8日 千葉大学アカデミック・リンク・センター 第4回ALPSセミナー
政策と現場から考える 大学のカリキュラムマネジメント
参加者アンケート

当日参加者数：50名 アンケート提出数：33件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・考えることがたくさんありました。
- ・カリキュラムマネジメントのグランドデザイン。
- ・政策的背景、中留氏の論の整理。
- ・カリキュラムマネジメントを考える上でポイントとなる部分について学ぶことができました。
- ・カリキュラムマネジメントにおいて「組織文化」が大事であること。
- ・カリキュラムマネジメントの評価(ワークシート)が頭の中を整理するうえでとても参考になりました。
- ・カリキュラムマネジメントの現状。
- ・カリキュラムについての考え方と問題点を整理できた。
- ・これまでの大学改革の流れ、そしてその中でのカリキュラムに関する政策的動向がよくわかりました。
- ・国の政策と現在までのカリキュラムマネジメントに関する流れの理解。
- ・カリキュラムマネジメントの経緯など。
- ・「教え方」の側面ではなく、「運営方法(マネジメント)の側面を多く知ることができました。グループワークで、他大学のお話を伺うことができたことは貴重な経験でした。「工学的アプローチ」を重視しすぎでは、という点については、その通りに感じました。(10月の鈴木先生のお話にも共通するように思いました。)
- ・文献的な整理はついたと思う。2040年答申で読み落としていたところ。
- ・カリキュラムマネジメントについての基本的、そして、体系的な学びをすることができた。体系的な話を聞くことがはじめてであったこともあり、今後のための良い学びであった。
- ・カリキュラムマネジメントは難しいということ。
- ・ポイントを包括的に整理できました。
- ・強みと弱みが表裏一体であること。カリキュラムマネジメントの難しさ。
- ・言葉がひとり歩きしているカリキュラム(マネジメント、全体)がぼやけていたが、輪郭がはっきりしてきた。
- ・工学的アプローチと羅生門的アプローチの話が興味深かったです。人材育成に工学的アプローチにかたよったカリキュラムであってはいけなと思います。標準化と多様化について柔軟に考えていきたいです。医学系は特にコンピテンシーベースの教育になってきているので、コンピテンシーをどう考えるかが大事だと思いました。
- ・カリキュラムマネジメントの3つの側面が「幼稚園～学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」で示されていたことです。
- ・理論的にカリキュラムの組み立てに必要なことが分かりました。
- ・PDCAの危険性 偶発性をすくえない。可視化 標準化
- ・カリキュラムマネジメントの運用の難しさを認識した。
- ・カリキュラムマネジメントの概念、進め方、機能のさせ方について理解できた。
- ・カリキュラムマネジメントの大枠を理解できました。

(以上原文まま)

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- どの様に実践していけば良いのか。
 - カリキュラムの幅をどの程度設けるべきか。要素の分担。
 - カリキュラムとプログラムの違い。イメージが混在した。
 - 企業の活用法。
 - 実際の大学での取り組み、おとし込みが気になりました。(青山学院大学様の取り組みなど)
 - 「多様な学生に対応」を目指すのに、「選択科目をひろげすぎない」という指針は、やや矛盾するようにも思いました。教員間・学部間(大学全体)で「課題や目標を共有、理解」といっても何をもってそう言えるのか、、、。(学生に対する評価基準も教育間に対する評価基準も、難しいなあと感じました。)
「ナンバリング」は、いわゆる「授業コード」のことですか。
 - 教育目標をカリキュラム評価による達成度をどの様に評価していくか。どうい結果なら改善の必要があるのか。
 - 理想と現実でカリキュラムマネジメントを実施する難しさがあるので前例があれば知れたかったです。
 - カリキュラムマネジメントの評価手法のイメージが湧かなかった。
 - ブランドデザインについてもっと詳しく知りたかった。
 - いろいろありますが、十二分にご説明いただきました。
- (以上原文まま)

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- 教育経験がカリキュラム編成に必要だとすると、教員しかカリキュラムマネジメントには関与できないということかと思いました。
 - いろいろあるので書ききれません。すみません。
 - 大学教員養成プログラムを開講し、受講者に「シラバス作成」、「ルーブリック作成」なども経験させる。政策者(国?)側は、大学教員の業務多忙さをもっと考慮すべきでは。統計理論をもっと学んでほしい。(センター改革って、できるの?…。パーマメントのポストをもっと増やしてほしい(←そのために予算も))
 - トップダウン型、ボトムアップ型、双方の大学独自のグッドプラクティス事業(予算3千万円)
(アクティブラーニングの推進、学修成果の可視化等 学部・学科・個人単位で取り組みを支援)
 - まだ学部の、完成年度を迎えておらずこれからです。
 - checkリストの内容、すべてに取りくめている大学はあるのでしょうか。うちはかなり厳しい状況とします。
 - 学生を主体と考えそのために教員・職員が組織をこえていかに連携できるのか鍵とします。
- (以上原文まま)

4. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ありがとうございました。
- 看護学部で教育をしています。杉谷先生もお話し下さいましたが、厚労省だけでなく文科省にも選ばれているように思いますので自由度について考えていきたいとします。本日はありがとうございました。
- 1990年代からの流れから、具体的方法、課題までわかりやすかったです。
- ワークの時間があると思いませんでしたので、驚きましたが理解が深まったように思います。
- カリキュラムマネジメントの重要性がわかった。
- 事務職員という立場でカリキュラムマネジメントに携わる機会がほぼない。ただ、このような知識・認識・考え方を持つことにより、今後、力になれることがあるかもしれないと思った。活かしていきたいと思った。(次ページに続く)

